

新善光寺 寺報 北 縁

2025年1月 Vol. 57

ほくえん



44年ぶりの
五重相伝、申込み迫る!

令和7年 年頭所感

お檀家の皆様におかれましては、清々しく新年をお迎えくださったことと存じます。日頃より当山の護持運営にご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

本年は昭和に換算すると、昭和100年になります。「明治は遠くなりにはけり」ではありませんが、昭和という時から随分と経ったものです。翻って考えると、昭和に起こった出来事の意味を考え直してみる時が今なのかもしれません。先の大戦が今を生きる私たちにどういう意味をもっているのか、また私たちそれぞれに私的に起こった昭和の思い出もそれぞれに思い返してみると、その時とは違う意味が見出せるかもなどと感じています。

また、当寺において今年は、開創150年を記念して五重相伝会を開く運びとなりました。すでに申し込みくださっているお檀家の方もおられます。その中には「母が昔受けたので、私も受けたい」とおっしゃる方がありました。世代をこえて真実の教えが伝えられることに感慨をおぼえます。どうか、多くの方々がこの五重相伝をお受けくだされば、幸いです。

住職 太田 眞琴



前列左より

ほりうちかずき
堀内和紀
(52歳)

おおた しんかい
太田真海
(40歳) (副住職)

おおた しんきん
太田眞琴
(76歳) (住職)

おおた こうけん
太田光顯
(43歳) (清璋寺住職)

まつ おいつし
松尾一志
(89歳)

後列左より

なが おしょうぎょう
長尾省行 (47歳)

たちばなしゅん ぶ
立花俊輔 (44歳)

〈新しい僧侶の紹介〉



初めまして、長尾^{なが おしろうぎょう}省行と申します。昨年12月より御当山にお世話になっております。約20年余り実家である小樽市銭函にあります浄土寺に勤めておりました。

ここ数年の様々な事象により、自坊の状況も大きく変化し、この度新善光寺様にお世話になる運びとなりました。

まだまだ不慣れでご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、これから何卒宜しくお願い申し上げます。合掌

※現在47歳で来年は年男です。

〈退職のお知らせ〉

令和6年をもちましてお二人の僧侶が新善光寺を退職しました。

・宗川信章 師



宗川さんは38年間もの長い間、新善光寺の法務をおこなっていただいております。お檀家様からの信頼も厚く、最近では法要でパソコンやカメラを何台も駆使して配信をしたりと、新善光寺の動画配信の立役者でもありました。

・佐古康祥 師



佐古さんはおよそ4年間少しの間、新善光寺に在籍しておりました。またそれ以前に8月のお盆のお手伝いにも来ていただいております、合わせると6年間になります。今回、ご自坊のある岐阜県に帰られるということになりました。

五重相伝について⑥

44年ぶりの五重相伝、申込み迫る！

新善光寺開創 150年記念事業

五重相伝会

6月10日(火)～14日(土) すべて正午から

申込期限 2月末まで



山門前に札を立てました

およそ2年前からお伝えしてきた五重相伝ですが、開催までいよいよあとわずかとなってきました。

現在、開催に向けて準備をおこなっているところであり、またお申込の期限も迫ってきております。当寺報での宣伝やお参りの際にもお声がけさせていただいておりますが、より多くの皆さんにお受けしていただきたく、まだまだ絶賛受付中です。

どのようなものか想像がつかない方もいらっしゃると思います。そこで先代住職の出身である大阪大通寺でおこなわれた五重相伝を動画にてまとめましたので、右のQRコードを読み込み、ご覧いただき参考の一助としていただければと思います。



動画です



15ページのQ & Aでも答えておりますが、5日間全部出るのは難しいという方はご相談いただければと思います。

また、塔婆での回向（供養）も受け付けております。独特の節回しでの回向は亡き方への最大の供養になります。

申込用紙は前号に同封しましたが、見あたらないという方は申込用紙をお送りしますのでご連絡ください。



◆すでにお申込をされた方に五重相伝を受けようと思った経緯を聞いてみました



橋本洋一様

橋本さんは2年前の東京増上寺への団体参拝旅行、さらにその前の長野善光寺や知恩院への旅行やまた毎年おこなっているバスツアーにも欠かさず参加なさっており、また毎月の月命日にはご自宅へのお参りも伺っている非常に篤信の方です。

「五重相伝は亡くなった両親や身内の供養のため、そしてまた自分自身にも得られるものがあると思い、自らの進歩のためにも受けてみようと思いま

した。私はお寺の行事にはできるだけ参加したいと思っており、この五重相伝もすぐに参加の申込みをしました。多くの方と共に浄土宗の真髓を感じてみたく、参加を迷っている方は是非とも一緒に受けましょう。

また、明照婦人会の会員の方々も多く参加して下さいます。婦人会には法要の時など、色々な場面でお手伝いいただいている、お寺に欠かせない存在です。

皆さんそれぞれの思いを胸に五重相伝に参加するとのことで、非常に楽しみにしていらっしゃるようです。



ご参加される婦人会の方々です

シリーズ 仏事のおはなし

仏さまのおはなし ①

皆さま新年あけましておめでとうございます。新しい年が本寺報の読者の皆さん、檀信徒の皆さんにとって健やかで穏やかな一年になりますことを心よりお祈りいたします。

さて、今回は「菩薩」さまの定義や、大乘仏教における菩薩の立ち位置、我々もまた菩薩となりえる所以などについてお話ししました。今回からは著名な菩薩さまについてお話ししていこうと思います。

◆観音菩薩（聖観音）①

観音菩薩は、しょうかんのん 彌陀三尊のうち向かって右にお奉りされる菩薩さまで、慈悲を象徴する菩薩さまです。その慈悲をもって、生きとし生けるもの（衆生）の苦しみを救済する役割を担っています。このような菩薩さまであることから、その伝えられるご利益は、苦難除災、極楽往生、開運厄除などといわれ、日本や中国をはじめとするアジア各地で広く信仰されており、その慈愛から人々に親しまれてきました。

観音菩薩の名の由来は諸説ありますが、一般的には「かんぜおんぼさつ 観世音菩薩 = 世の声を観じて救う」という意味とされています。また、「かんじざいぼさつ 観自在菩薩」「くぜかんのん 救世観音」などの別称を多数もつ仏さまとしても知られていますが日本では単に「観音さま」と呼ばれることが多いようです。

観音菩薩の起源は、『ほっけきょう 法華経』の中の「かんぜおんぼさつふもんぼん 観世音菩薩普門品（通称：かんのんきょう 観音経）」とされています。この経典には、観音菩薩の慈悲心信じその名を称えれば、観音さまが様々な形をもって人々の苦しみを救うことが説かれています。

日本では観音菩薩への信仰が非常に強く、様々な形で信仰されています。飛鳥時代に仏教が伝来した際、観音菩薩も共に日本に伝わり、その後、多くの仏像や寺院が建立されました。観音菩薩は三十三の姿に変化して人々を救うとされることから、日本各地には「三十三観音霊場巡り」という信仰の形があります。これは、観音信仰の一環として、観音菩薩を祀る三十三ヶ所の寺院を巡礼するものです。これにより、観音菩薩の慈悲を直接感じるとともに、自身の罪を悔い改め、功德を積むことができるとされています。

◆経典における観音菩薩

先に記した通り、「観世音菩薩普門品」では、観音さまの慈悲について記載があ

ります。この経典ではお釈迦様が無^む尽^{じん}意^い菩薩^{ぼさつ}に観音菩薩について説かれています。観世音菩薩を疑うことなく、一心に念ずるように。苦しみのときに、一心に菩薩を念じその名前を唱えることで、人々は救われると説いています。ご利益の具体例として「火難・水難・羅刹^{らせつなん}難（悪鬼による^ら苦^くしみ）・刀杖^{とうじょうなん}難（武器による^{とう}苦^くしみ）・鬼難（悪霊による^か苦^くしみ）・枷鎖^{かさん}難（縛られる^か苦^くしみ）・怨賊^{おんぞくなん}難（犯罪者による^{おん}苦^くしみ）」という七つの難を免れると説いています。また、「三十三身」という、三十三通りの姿になって現れると説かれています。このような多くの姿で現れ、仏教を求める人に現世利益をもたらすと説かれています。

また、皆さんもご存じと思われます「般若心経」にも観音さまの名が記されており、「観自在菩薩」という名で登場し、お釈迦さまの弟子の舍利子（シャーリプトラ）との会話にて「般若波羅蜜多（完全なる^{はん}智^に恵^や）^{はらみつた}」についてお説きになっています。

◆観音菩薩信仰の教えと役割

観音菩薩信仰の核心は、「慈悲」と「救済」です。仏教では、苦しみから解放されることを目指しますが、観音菩薩はその過程で特に慈悲深い存在として、人々を支える役割を果たしてきました。すべての人々の「苦しみの声」を聞き、その声に応じて助けるとされているため、人々は困難な状況や悩みを抱えた際に観音菩薩に祈りを捧げます。観音菩薩の慈悲は無限であり、いかなる人でも拒まないとされるため、多くの人々に親しまれてきました。

現代でも観音さまへの信仰は根強く、日本全国で観音菩薩を祀る寺院が存在します。特に観音信仰は個人の平安や家庭の安全、社会全体の調和を祈るための象徴として重要な役割を果たしています。

また、観音さまの慈悲の教えは、宗派を超えて広く受け入れられています。様々な姿で現れる観音菩薩は、多様化する日常生活での困難に直面した際、その希望や支えとして現代人の心にも深く響いていると考えられます。

その慈悲深い姿と教えを通じて、古代から現代に至るまで多くの人々に安らぎをもたらしてきた観音さまは、今後も人々の心の支えとなり続けることでしょう。

今年の能登地震を縁として

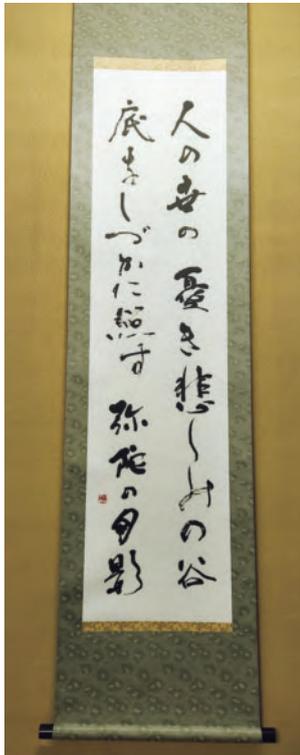
令和の御代になってから、毎年1月2日に信州は長野の善光寺さんへ初詣にお参りしています。昨年も、元日に都内から新幹線で信濃をめざしました。埼玉の浦和を通る頃、新幹線が緊急停止しました。車内のアナウンスが流れ、能登半島で地震があったとのこと、しばらく停車したのち、長野までは行けるが、それ以降の北陸には走行できないということでした。タイヤが乱れ、一駅ごとに停車しては進んでいくローカル線のような運行で、通常なら都内から長野まで1時間40分ほどで着く道りですが、5時間強の長旅となりました。しかしながら、翌朝には如来さまにお会いすることができ、今年も新春の善光寺参りができたなど帰路につきました。

その帰り道、ふと心に去来したお歌が次の御道詠です。

「人の世の 憂き悲しみの 谷底を しづかに照す 弥陀の月影」

(藤井実応上人)

私たちは、困難に遭う時ともすれば“神も仏もあるものか”というところもちになることがあります。それでもなお、如来さまは私たちを決して見捨てず、まさに「しづかに」つつみこんでくださいます。その如来さまのやさしさを今回の震災でも感じることができました。



また、振り返りますと、令和2年からの疫病の難により、多くの憂いや悲しみを体験いたしました。善光寺の鷹司誓玉上人は、次のように語っておられます。

「為す術もないという言葉通り、私ども宗教者も力のなさを痛感するのみでございましたが、果たして、御仏の教えとはまさに混乱の娑婆世界を生きてゆくためのもので、今に至りましては、御仏に祈ることの大切さをこの感染流行の世の中でこそ、分からせていただいていると、有難く頂いております。」

(令和4年3月発行 善光寺信徒会会報「法燈」より)

この世にいるかぎり、悲しみや憂いのないところはありません。その苦悩や悲嘆を通して、本当の幸せを感じることができるのが、お念仏者の尊いところです。悲しみを縁として、お浄土という世界がより一層有難く、しみじみと感じられた初詣でした。

〈文：立花 俊輔〉

開宗850年に思いをよせ、京都に行ってきました

昨年、令和6年は法然上人が浄土宗を開いて850年の記念の年でした。その味わいを深めるべく、もみじが彩りはじめる頃、元祖さまの足跡を訪ねてみました。まずは、法然上人が15歳くらいから43歳まで過ごされた比叡山^{くろだに}黒谷青龍寺に参詣しました。京都市内でレンタカーを借りて一路比叡山をめぐります。峰道^{みねみち}の駐車場にとめて、徒歩でおよそ30分木立のなかを歩きます。20年ほど前、大学生の時にもお参りしたことがあります。その際は、途中瑠璃堂^{るりどう}の前を通っていましたが、今は道が変わっているようでした。私以外、どなたもお参りの方ではなく、心静かにお参りできました。時折、鳥のさえずりのみが、山中に響き、おだやかな雰囲気を感じておりました。

京都市内にもどると、インバウンドの影響かとてもにぎやかです。今度はレンタサイクルを借り、東山方面へ。京都国立博物館で開催中の特別展「法然と極楽浄土」を拝観。東京の上野での展覧会が終わり、この度は京都で、今年10月からは大宰府の九州国立博物館と巡回します。今回の京都展で、私が印象深かったのは香雪美術館所蔵の二河白道^{にがびやくどうず}図です。数多くの二河白道図があり、その構図や描き方はさまざまにあります。この香雪美術館蔵の図には、お釈迦さまのうしろに韋提希^{いだいけ}夫人^{ふにん}と思われる方が描かれています。韋提希夫人は、『観無量寿経』に登場し、悲しみの末に真実の幸せを求めた、私たちお念仏者の先達です。この図は13世紀鎌倉期の作ということですが、この図を拝し、どれほどの方々がお念仏を喜び、行じてきたことでしょうか。私もその一人として、これからもこの道を歩んでいこうと感じた今回の旅でした。

〈文：立花 俊輔〉



比叡山黒谷青龍寺



比叡山東塔根本中堂

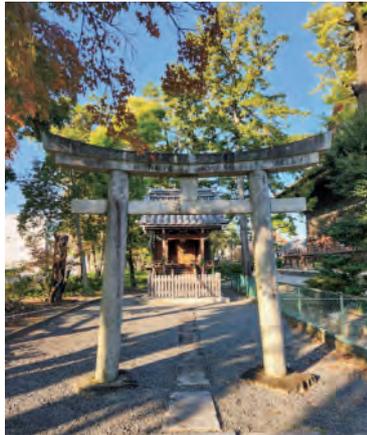


京都国立博物館

浄土宗の総・大本山について

百萬遍 知恩寺 (ひやくまんべん ちおんじ・京都)

京都大学の近くに「百萬遍^{ひやくまんべん}」という名前の交差点があります。その名の由来となっているお寺が、浄土宗大本山のひとつの百萬遍知恩寺です。またの名を「賀茂^かの禪房^{ぜんぼう}」といい、古くは賀茂神社の神宮寺であったようです。賀茂社は秦氏との関係が深く、法然上人が秦氏の出自であることから、その関連性がうかがえます。現在でも、大殿の西側に賀茂明神をまつるお社があります。また、前回紹介した金戒光明寺^{こんかいこうみょうじ} (くろ谷^{だに}) の境内にもおられた五劫思惟^{ごこうしゆい}のお像が、百萬遍さんにもおいでです。大本山の中でもお参りしやすいかと思えます。京都に行かれる際は是非ともお参りください。



賀茂明神鎮守堂



五劫思惟のお像



浄土宗宗紋の間に“百”の文字が

大本山 百萬遍 知恩寺 京都市左京区田中門前町 103

行事案内

3月20日（祝・木）10時 〈春彼岸法要〉

今回も今まで通りの方法で法要をおこないます。

具体的には、受付で塔婆を受け取り、本堂で係に塔婆を渡し、塔婆を読み上げて回向している間にご焼香をして、お帰りいただくという流れになっております。

コロナ禍になってからこの流れを継続しており、以前の着座で焼香の順番を待つやり方よりもお参りしやすくなったとの声も多くいただく一方、やはりゆっくりとお経を聞いていたいとの声もあり、試行錯誤している状況です。読経に関しては僧侶で考えて毎回ちがうやり方でおこなっております。

どうぞ今年の春も多くのお参りをお待ちしております。



5月10日（土） 〈花まつり〉



仏教各宗派の集まりであります札幌市仏教連合会の主催でお釈迦様の誕生をお祝いする「花まつり」を今年は新善光寺で開催します。

例年通りであれば誕生仏への甘茶かけやブラスバンド演奏など盛りだくさんの内容となるはずですので、こちらもぜひ足を運んでいただければ幸いです。チラシは春彼岸法要でお配りする予定です。

〈婦人会に入りませんか？〉

新善光寺には明照^{めいしょう}婦人会^{ふじんかい}という集まりがあり、およそ2か月に1回の例会などを通し会員同士との交流をおこなっております。例会の前には季節ごとの法要（涅槃会など）をおこない、実践を通して仏教を学んでおられます。お試しで参加することも可能ですので、ご興味のある方はご連絡いただければと思います。

TEL 011-511-0262 担当：角田^{かくた}



清璋寺より

あけましておめでとうございます。

手稲区西宮の沢にあります清璋寺では新年1月3日に恒例の修正会・新春祈願法要をとりおこないました。多くの方がお参りに来られ、お正月らしいにぎやかな雰囲気の中で、法要では太鼓を打ち鳴らし、今年1年の安全を願い、またご先祖様に思いを馳せ共々にお念仏をおとなえいたしました。

皆さまにとりまして実り多き1年になりますよう祈念いたします。

どうぞ、本年もよろしく願いたします！

(清璋寺 住職 太田光顯)



行事報告

< 除夜の鐘が無事に終わりました >

新善光寺では大晦日の12月31日午後11時45分頃から除夜の鐘を鳴らしました。お檀家様はじめ、近隣にお住まいの方、また外国からの観光客など多くの方が来られておりました。今回から混雑防止のため整理券の配布を止め、記念品は108つまでですが、回数に関係なく来られた方全員に撞いていただくことにしました。

また、近隣寺院6つと協力してスタンプラリーも同時開催して、こちらも大盛況でした。



慈啓会から

札幌市中央区第2地域包括支援センター

札幌市中央区第2地域包括支援センター（以下「包括」）は、札幌市内にある27ヶ所の地域包括支援センターの1つです。札幌市中央区の円山地区、南円山地区、宮の森地区にお住まいの高齢者の方々が、慣れ親しんだ地域で安心して暮らし続けられるように支援しています。平成18年4月から運営を開始しており、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員の3つの専門職が連携して活動しています。

また札幌市の地域包括支援センターには介護や福祉の支援を求めている高齢者やそのご家族を明るく照らし、道しるべとなってくれる「ホタル」をモチーフにしたイメージキャラクター「ほっター」がいます。センターの窓口は、優しさや広い愛をイメージさせるハート型で、窓口の扉となる羽を大きく広げて、高齢者やご家族の訪れを待つ空間を表現しています。訪れた方が「ほっ」と胸をなでおろすことができる場所を目指しています。



このような思いをもとに、包括は地域の皆さん、関係機関、企業との連携を大切に、地域包括ケアシステムの構築を進めています。当法人の理念「共生（ともいき）」のもと、地域に寄り添い、共に歩むことを目指しており、地域共生社会の実現に向けて取り組んでいます。

令和6年4月からは、認知症支援の取り組み「チームオレンジ事業」がスタートしました。この事業は、認知症になっても、なくても、誰もが今までと変わらず、地域で生活していくことができるよう、地域全体で支えていく仕組み作りを目指しています。誰もが生きがいを持ち、楽しく過ごせるような地域共生社会作りの一助となれるよう、努力を続けています。ただ、課題として認知症に対するマイナスイメージが地域全体に波及していることがあります。今は少しずつですが、そのイメージを払拭し、地域の皆さまと共に活動を進めています。困った時にすぐに駆けつけ、寄り添うセンターとして、今後も皆さんのお力になれるよう努力してまいります。



〈チームオレンジ活動の様子〉

【お問合せ】 札幌市中央区第2地域包括支援センター 電話：011-520-3668

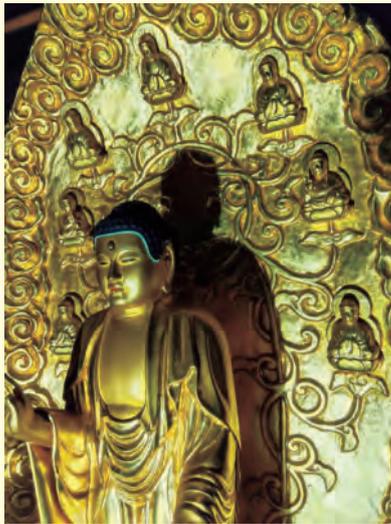
札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎️ 0120-83-8291 お電話受付時間／8:45～17:00(土日・祝は除く)
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp

専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

相談無料

当山のお仏像を紹介します⑭ いっこうさんぞんぶつ **一光三尊仏** ぜんこうじにょらい (善光寺如来) **造形編**

月影の間に安置されているお仏像が、こちらの如来さまです。前回、前々回では、インドから我が国へお渡りになった伝承を紹介しましたが、今回は如来さまのお姿についてお話しいたします。一つの光背こうはいの中に、阿弥陀さまあみださまと観音菩薩くわんおんぼさつと勢至菩薩せいしぼさつのお三方さんかたがおられるので、一光三尊仏とよばれます。また、光背には七体の仏さまがおられ、七化仏しちけふつといひます。台座は、臼うすの形をしているのが特徴です。



善光寺如来の本仏は、信州長野の善光寺本堂ほんだん瑠璃壇におられ、絶対秘仏としてお目にかかることはできません。しかしながら、そのご分身は全国各地津々浦々におまつりされています。そのひとつが当寺の如来さまです。



同封の年回忌表の言葉

念佛で今日も一日ほのぼのと

お念仏とは、南無阿弥陀仏なむあみだぶつと声にだしてお称えとなえすることです。お念仏の元祖法然上人は次のようにお示しです。

「生いけらば念ねん仏(ん)ぶつの功こうつもり、死しなば浄土じょうどへ参まいりなん。とてもかくてもこの身みには思おもいわずろうことぞなきと思おもいぬれば、死生しじょうともにわづらいなし」

私たちは、いつこの世での時間が終わるかわかりません。一瞬一瞬を生きている中で、お念仏を申すということは、如来さまの「よく汝を護らん」という御心みこころを頂戴できるのです。たとえ、悲しみのただ中にあるうとも……。



北縁 なんでも Q & A

皆さま、新年あけましておめでとうございます。本年も皆様にとって良い年となりますことをお祈り申し上げます。

いつも本コーナーへご質問、感想等、ご投稿いただきありがとうございます。

本令和7年6月には、いよいよ「五重相伝会」が開蕙されます。今回は「五重相伝」に関する質問がありましたので、お答えしようと思います。なお、お申し込み期限はご本山へ「伝巻」をお願いする関係上、本年2月までとなっています。まだ迷っている方がいらっしゃいましたら、お電話でも、お参りに伺った際にも、まずは僧侶に相談、お話を聞いてみてください。

Q1 お寺から五重相伝の案内をいただきました。自身はもう高齢ですが参加できるのでしょうか。

Q2 五重相伝は、5日間全部出席しなければなりませんか？

A 筆者もお檀家さん宅へのお参りで「五重相伝」についてお話いたしますと、ほとんどの方が高齢を理由に参加はできないとおっしゃいます。前回の寺報で同封した要項をご覧くださいとお分かりですが、確かに5日間の修行と称した法会にご参加いただくのは大変なことで、不安に思うのも無理はありません。

「五重相伝はどんな法要なのですか？」というご質問をいただいたとき、私は「私たち僧侶がお坊さんの資格を頂戴する時に入行した、修行の簡易版です」といった回答をしています。

お坊さんの修行の話ですが、浄土宗は「断食・水行・座禅・不眠」などの「苦行」と呼ばれる修行はありません。それでも修行期間は世間の情報と隔離され、自分の時間がほとんど取れない修行時間を仲間と作務や寝食を共に勤めていくのはそれなりに厳しい時間です。その間に様々な教義を学び、勤行に勤しみ、先人たちも共にお称えしてきたお念仏のしみ込んだ道場で過ごす時間、そして修行仲間と共に幾千幾万のお念仏を受けてこられたご本尊へ日々の礼拝というのは、この上ない宗教体験であり法悦でもあります。修行を最後まで終えたことを「成満」と言いますが、これは人生の中で最も感銘を受ける瞬間のひとつです。

五重相伝はこれらの簡易版ではありますが、内容は期間が短い分、大切な部分をしっかりお受けすることができるということがあります。5日の間、毎日自宅からお寺まで通い、聴講とお勤めを数時間にわたって行うことは確かに厳しいかもしれませんが、しかしその積み重ねた時間がかならず人生の大きな喜びになることは間違いないと思っています。

5日間のうち、体調が悪い理由などでお休みをしてしまうことはあるかと思いますが、その時はお寺でできる限り皆さんが成満できるようにサポートをしていきますので、是非またとないこの機会を前向きにご検討いただけましたら幸いです。

〈東京別院 霊源寺より〉

品川区荏原（最寄り駅は五反田・不動前）にあります霊源寺は新善光寺の東京別院（一般会社でいうところの支店）に位置づけており、関東近郊に在住の新善光寺のお檀家様のご葬儀やご法事・お盆参りなどのご供養をとりおこなっております。

また、春と秋には住職もしくは副住職が導師のもと彼岸法要をおこなっております。

今年は3月23日の終い彼岸の日におこないます。お近くにお住いの方は一度お参りに来られることをおすすめします。



春彼岸法要 3月23日(日) 11時より 導師：新善光寺住職
東京都品川区荏原 1-1-2 TEL 03-3494-1083

東京別院霊源寺 検索

毎月第4土曜日におこなっている仏教講座「写経」ですが、3月はお彼岸の関係で第5土曜日の29日におこないます。

編集後記

すっかり遅くなりましたが明けましておめでとうございます。

今年は5月に札幌市仏教連合会の花まつりそして、6月には44年ぶりの大法要「五重相伝会」と大きな行事があり、今から準備などで苦勞しております。

私も40歳になり、すっかり年月が過ぎるのが早く感じるようになりました。おそらくあつという間に行事を迎えることになるでしょう。

五重相伝会はまだまだ参加される方を募集しております。どうぞ多くの皆様と共に念仏の真髓を味わえることを願っております。

また、今年は納骨堂の増設も予定しております。そちらは次号以降にお知らせしたいと思います。

それでは今年1年もどうぞよろしく願いいたします。（太田真海）

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。
どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。



ホームページ YouTube

新善光寺寺報
Hokuen 57
北 縁

発行／2025年1月発行
発行責任者／新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp